

様式第2号

視察研修先	千葉県松戸市	氏名	佐藤政人
視察研修項目	子育て施策について（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）		
感想・所見など			
<p>① 小規模保育事業の推進(H27.4月=8箇所→R5.4月=118箇所)</p> <p>保育需要が利便性の高い駅周辺に集中しており、0～2歳児を積極的に受け入れるため、駅前・駅ナカの空き店舗等を利活用した小規模施設の整備を推進した。最短3ヶ月、低コストで開設でき、また、民間の保育園、幼稚園との連携を市が積極的に行うことで、次の受け入れ先がスムーズに進んでいることが分かった。また、小規模保育施設を設置することで、民間の保育施設も確実に増え、利用者数も年々増加し、8年連続国基準の待機児童はゼロとなった。</p> <p>② 幼稚園預かり保育事業の拡充</p> <p>幼稚園の教育を受けさせたいものの、預かり時間が短く費用も高い、共働き世帯又は経済的に利用できない等で諦めていた。そこで幼稚園の預かり時間延長及び助成金支給による対策を実施。民間幼稚園36園中24園が長時間預かりを実施した結果、年々小規模保育施設や保育所からの進学者が増加している。</p> <p>③ 送迎保育ステーション事業の推進</p> <p>平成27年10月よりスタートしたこの事業は、駅前に集中していた保育需要を分散することが目的であった。保育需要の地域偏在の解消はできたが、小規模保育施設が整備されると、卒園児の受け入れ先確保が必要となってきた。そこで、幼稚園の空き定員を活用し、駅前に集中する卒園児童を幼稚園に送迎する幼稚園型に移行することで、減少していた幼稚園の入園率も改善できた。</p> <p>④ まとめ</p> <p>松戸市の子育て施策により、積極的に未就学児を受け入れる体制が整い20～30代の人口は増えた。しかし小学校に入るときには周辺の自治体に流出してしまい、定着率や定住の促進対策を検討しなければならないということであった。</p> <p>寒河江市でできることではないが、小規模保育施設・保育園・幼稚園のそれぞれの役割を上手に繋ぎ合わせているところは、参考すべきと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	東京都昭島市	氏名	佐藤政人
視察研修項目	アキシマエンス（昭島市教育福祉総合センター）について		
感想・所見など			
<p>① 廃校の利活用計画</p> <p>当初は、市民の学習意欲の高まりを受け、図書館活動の拠点整備事業として、昭島市庁舎跡地利用を計画していた。</p> <p>H22. 5. 27～H23. 10. 14まで10回に渡り、社会教育複合施設建設計画基本方針の策定を行なった。H26. 6つつじが丘南小・北小の統合（少子化のため）が決まり、予定地をつつじが丘南小跡地に変更し、名称も「社会教育複合施設」から「（仮称）教育福祉総合センター」に変更し、建設計画の説明会・市民ワークショップ・こどもワークショップ（南小児童）を実施したのち、H28. 4小学校統合、同5月基本設計完了しH29. 12. 18起工式を経てR2. 3. 28開館。</p> <p>統廃合が決まってからしっかりと準備したのちに、計画が決定しているプロセスは、寒河江市も今後の廃校利用の参考にするべきだと感じた。</p> <p>② 複合施設としての状況</p> <p>アキシマエンスは、国際交流教養文化棟（図書館・郷土資料室）・校舎棟（「学びの拠点」として教育・児童福祉などに関する施設を集約）・体育館（旧小学校の体育館を改装）の3つの施設で構成されており、特徴的なのは旧小学校のグラウンドに建設された国際交流教養文化棟である。図書館としては最先端の収蔵システムや画期的な利用方法、郷土資料室を併設することで、郷土愛を育む仕掛けなど、学校施設だったからこそ足を運びやすい環境など、寒河江市の公共施設のあり方を検討する上で参考にできると感じた。</p> <p>③ まとめ</p> <p>学校跡地利用の事例として、複合施設にすることで人の集まる環境づくりがどのように実現できたのか、大変興味があった。</p> <p>今後、寒河江市には廃校舎が増えてくることが決まっているが、ぜひ活用できる校舎はしっかりとビジョンを持って計画して、利用方法を決めていただきたい。また、既存施設でも創意工夫して利用者が集まりやすい環境づくりを実践することで、利用率の向上や賑わい創出につながっていくのではないかと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	神奈川県大和市	氏名	佐藤 政人
視察研修項目	「おひとりさま支援条例」と高齢のひとり暮らしの方を支援する取組について		
<p>感想・所見など</p> <p>① 大和市における現状と課題</p> <p>R3. 12. 1現在の65歳以上の方を含む全世帯中、65歳以上の1人暮らし世帯数は実に40.7%となっている。</p> <p>高齢者が1人暮らしになり孤立と閉じこもり傾向が積み重なると、健康に影響することがわかってきており、「つながりの少なさ」による発症率が、心臓病 約1.3倍・脳卒中 約1.3倍・認知症 約1.5倍、「孤立と社会的孤立」の場合は、冠動脈性心疾患 約29%・脳卒中 約32%発症するというデータが示されていた。これらのデータから、外出や社会交流の促進に取り組むことが「おひとりさま」の「健康」にとって不可欠ということで、条例制定につながった。</p> <p>② 条例のポイント</p> <p>「健康都市やまと」を標榜していることから、「おひとりさま」の健康のため外出支援を促進し「健『幸』都市やまと」の実現を目指すというもので、社会からの孤立を防ぎ、つながり続けられる社会環境を整備していくことで、健康問題として取り扱うこととしたもの。</p> <p>③ まとめ</p> <p>今後の平均寿命の推計値では、ますます平均寿命が伸びると予想されている。また、65歳以上の高齢の1人暮らしも確実に増える予測が出ている。それは、未婚者の推移が大きく関わっていることも背景としてあるようだ。</p> <p>おひとりさま支援条例は令和4年に制定されたばかりで、今後の取り組みがどのように影響してくるのか、大変楽しみである。</p> <p>今後の寒河江市では、しっかりとデータを採り、高齢者の1人暮らし世帯数の支援に繋げることは可能だと思われる。高齢者の1人暮らし世帯の交流の場の開設支援や、交流の場までの移動手段などの行政が支援できることはきっとあるはずなので、今後調査研究をしっかりと行い、孤立や閉じこもりの危険性を周知し、「おひとりさま」の健康のためしっかり支援してほしい。</p>			

様式第2号

視察研修先	埼玉県富士見市	氏名	佐藤 政人
視察研修項目	フレイルチェック事業について		
感想・所見など			
<p>① 健康長寿=鍵はフレイル予防</p> <p>東京大学高齢社会総合研究機構が開発したプログラム「住民による住民のためのフレイル予防」を全国展開し、市民主体(フレイルサポーター)による栄養・運動・社会参加を軸とした包括的フレイルチェックを実践し、集いの場を気付きの場にするにより、フレイル兆候に気づく環境づくりを推進することで要介護状態にならないことが、健康長寿状態と考えられる。</p> <p>② 富士見市が目指す未来</p> <p>高齢者の健康寿命の延伸・将来的な介護給付費の抑制・高齢者の生きがいづくり・フレイル予防産業の創出による地域経済の活性化を、フレイルサポーター連絡会・社会資源の活用・東京大学とのパートナーシップ・企業との連携協定により実現し、住民による住民のための『フレイル予防』の確立を目指すようだ。</p> <p>③ まとめ</p> <p>年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態のことを「フレイル」という。多くの方がフレイル段階を経て、要介護状態に陥ると考えられているため、兆候を早期に発見し、日常生活を見直すなど正しい対処を行えば、フレイルの進行を抑制し、健康な状態に戻すことができる。</p> <p>※「フレイル」は虚弱を意味する英語を語源として作られた言葉。</p> <p>「フレイル」状態にならないためには、早くからのチェック習慣が必要と考えられる。筋力のピークは30代で80代になればピーク時の半分しか筋力がなくなることを認識する必要がある。職場等での健康診断時にフレイルチェックを行う仕組みができてくれば、定期的にチェックすることでフレイル状態に陥っていないかを判断できるようになり、介護給付費の抑制につながっていくのではないかと考えられる。</p> <p>ただ、現状は高齢者を対象に始まったばかりの事業のため、高齢者自身がフレイル状態を理解しないとか、フレイルチェック自体を必要としないなど、認知度を向上する必要がある。寒河江市においても100歳体操を多くの町会の老人クラブで実施しているが、なぜ体操しているのかしつかり理解して実践しているか不明である。若い世代からチェックできる仕組みづくりが必要と感じた。</p>			